

熊本県宇城市の 概要・特徴等

宇城市は、熊本県のほぼ中央に位置しており、平成17年に海沿いの町と山側の町の5つの町が合併して誕生した市です。東西に長い地形をしており、温暖な気候で栽培される農作物の生産も豊富な一方、交通の便に恵まれ、県内市街地までも通勤圏内であるためベッドタウンという役割も果たしています。こうした特徴を生かし、「ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市(まち)・宇城」を将来都市像として定め、本市への愛着度を醸成し、移住定住を進めるため、ブランドロゴ「UKINISUM(ウキニスム)」を作成し、若い世代や子育て世代が住み続けられるまちづくりを目指しています。

【面積】188.61km² 【人口】58,558人 【世帯数】24,672世帯(R2年6月末日現在)
【高齢化率】約31.4%(平成27年国勢調査)

解決したい地域課題

①データ連携共通基盤の構築

地域にとって重要な経営資源である、住民情報や公共施設、インフラ資産、民間企業、医療機関、教育機関などのデータは各機関において個別にデータを取り扱っているが現状です。それらのデータを効果的に活用するためには、各データを収集、分類、抽出・加工・分析、活用するプラットフォームが必要となります。こうしたデータ連携共通基盤を構築することにより、ウェアラブル端末やカメラ、センサーなど入力ツールやデジタルサイネージ、ダッシュボードなど出力ツールが効果的に活用できるため、これらのデジタルツールの導入と共通基盤を構築したいと考えています。

②新たなモビリティサービスの活用

本市の公共交通は脆弱で、鉄道とバスの連携が手薄となっています。また、バスの利用者が少ないため路線バスへの多額な補助金の支出が課題となっています。市内中心部を循環するバス路線はなく、市内中心部での利用者の移動手段の確保が課題となっています。また、運転士の人手不足も課題の一つとなっており、人手に頼らない移動手段の確保も課題となっています。

熊本県 宇城市の課題

ソリューション提案に対するアピールポイント

本市では、平成29年度に全国自治体にさきがけてRPAを導入しました。また、平成30年度に「宇城市IoT実装計画」を策定し、市内全域に光ファイバ網を整備したほか、獣害対策へのIoTの活用など、積極的に取り組んできました。令和2年度には自治体窓口や公共施設のキャッシュレス化に取り組む「モニター自治体」に選定され、キャッシュレス決済導入に向けた取組を進めています。これらの実績も活かしながら、市内の組織横断的な体制づくりや、民間企業も含めた各種団体等との連携調整を行って課題の解決を目指します。

イノシシの出没・捕獲状況をセンサーで検知し、猟友会や農家等の捕獲者のスマートフォンにメールで通知するとともに、捕獲歴の表示などリアルタイムに情報が可視化。

参考資料 ●IoTを活用した獣害対策取組イメージ

